

乳児健診におけるアンケート調査のまとめ

*伊 藤 玲 子 *佐々木 芳 枝
保健所（花輪、大館、鷹巣、能代、男
鹿、五城目、秋田、矢島、大
曲、角館、横手、湯沢）

I は じ め に

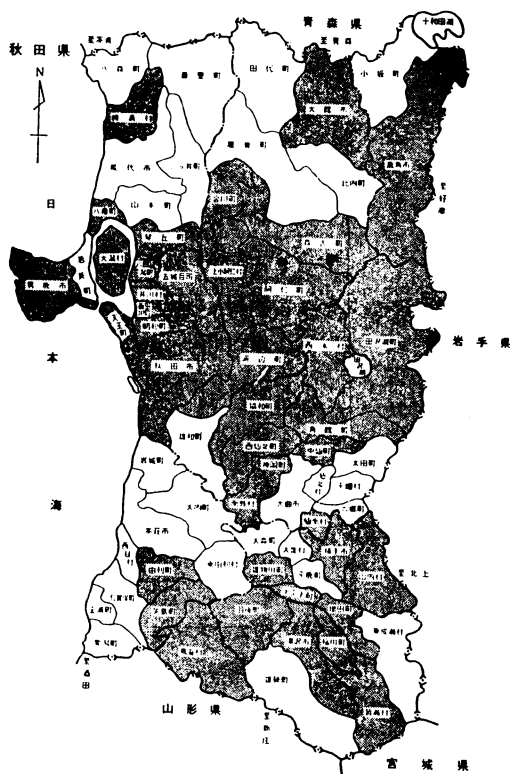
本県においては、昭和36年来、保健所（13カ所）市町村（69カ所）で行なう乳幼児健康診断に対し、同一の健診票の使用をすすめて来たが、昭和41年に厚生省の「母性、乳幼児の健康診査及び保健指導に関する実施要領」の改訂にともない、より早期の異常を発見することがとりあげられるに及んで、医師グループ（秋田県小児保健会）による健診内容の充実の検討を行なった。

その結果、診察と共にアンケートの併用を行なうこととし、47年度より開始した。

すなわち、このアンケートを使用することにより、母親や家族に対し、子どもへの関心を強めると共に、一方、健診を行なう側では、家族の訴えた異常状況や、親と子の態度等を知ることにより健診の内容や、事後処理をより効果的にすることを計ったものである。

今回、48年度のまとめを行ない、母子保健管理の参考として検討してみたい。

図1 アンケート調査市町村（昭47）



II 調 査 方 法

アンケート用紙の内容は、別紙のとおりである。3～6ヵ月用、9～12ヵ月用、2才用に分けられ、それぞれA発育、B行動発達、C形態、D病気異常、E養護、Fその他の区分となつて、チェック形式であるが、質問内容によって意見や希望が書きこめるようになっている。

このアンケート用紙を、保健所、あるいは市町村の乳幼児健診案内状と共に送り、母親を中心に家族で検討し、記入の上、健診の際に持参することとした。

III 調 査 対 象

昭和47年6月より12月までの乳幼児健診の折に行なつたもので、今回の調査は、図1、表1に示すように39市町村である。

受診総数7431名の中、記載不備1391名を除き調査実数6040名となるが、この中、さらに、今回はアンケート

表1 調査地区、調査実数（昭47. 秋田県）

保健所	市町村数	市 町 村 名	男	女	計
鹿 角	1	鹿角市	313	329	642
大 館	1	大館市	116	115	231
鷹 巣	3	森吉町, 阿仁町, 合川町	95	122	217
能 代	3	琴丘町, 八竜町, 峰浜村	78	72	150
五城目	6	五城目町, 昭和町, 飯田川町, 八郎潟町, 大潟村, 井川村	136	140	276
男 鹿	1	男鹿市	296	252	548
秋 田	3	秋田市, 天王町, 河辺町	1,107	1,036	2,143
矢 島	3	矢島町, 由利町, 鳥海村	171	168	339

大 曲	5	神岡町, 西仙北町, 協和町, 南外村, 仙南村	141	140	281
角 館	4	角館町, 中仙町, 田沢湖町, 西木村	203	205	408
横 手	5	横手市, 雄物川町, 十文字町, 増田町, 山内村	273	266	539
湯 沢	4	湯沢市, 稲川町, 羽後町, 皆瀬村	127	139	266
計	39		3,056	2,984	6,040

※調査総数7,431名, 内除外1,391名

用紙の月令に該当しない7, 8ヵ月児も除き, 調査数は3～6ヵ月児3,802名(39市町村), 9～12ヵ月児917名

表2 経 済 地 区 帯 区 分 別 調 査 地 区

地 区	カ所数	市 町 村 名	男	女	計
都 市 近 郊	1	秋田市	963	907	1,870
平 地 農 村	23	大館市, 五城目町, 井川村, 飯田川町, 昭和町, 八郎瀧町, 大瀧村, 河辺町, 八竜町, 天王町, 由利町, 横手市, 十文字町, 雄物川町, 湯沢市, 羽後町, 神岡町, 中仙町, 仙南村, 増田町, 岩崎(湯沢市), 弁天(湯沢市), 山田(湯沢市)	933	886	1,819
農 山 村	24	合川町, 毛馬内(鹿角市), 大湯(鹿角市), 尾去沢(鹿角市), 花輪(鹿角市), 八幡平(鹿角市), 峰浜村, 琴丘町, 男鹿市, 矢島町, 鳥海村, 角館町, 西仙北町, 南外村, 協和町, 稲川町, 森吉町, 阿仁町, 西木村, 田沢湖町, 山内村, 皆瀬村, 須川(湯沢市), 三関(湯沢市)	1,160	1,191	2,351
計	48		3,056	2,984	6,040

本報告においては, 全県の集計と, 3ヵ月児の経済地区帯別の比較についてのべる。

なお, アンケートの内容を,

1 発育, 行動発達 (A発育, B行動発達)

2 身体異常 (C形態, D病気異常)

3 養護 (E養護)

に分類し, 年月令別に観察した。

A 秋田県39市町村における乳幼児健診

アンケート調査結果

1 発育, 行動発達

アンケートは, 質問に対し, Yes, No 式に作成されている。集計は, 異常を想定される No の答えを中心に行った。

a) 3～6ヵ月 (表3)

表3 秋田県3～6ヵ月児発育・行動発達異常状況 (39市町村)

事 項	3ヵ月		4ヵ月		5ヵ月		6ヵ月		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
性 別	1,401	1,372	210	224	154	188	140	113	1,905	1,897
1 発育不順	20[36] (1.4)	20[35] (1.5)	5[4] (2.4)	2[8] (0.9)	0[3] (0.5)	1[2] (0.7)	1[1] (0.8)	2[5] (1.8)	26[44] (1.4)	25[50] (1.3)
2 音のする方に向かない	77[43] (5.5)	62[40] (4.5)	2[1] (1.0)	4[2] (1.8)	1 (0.6)	1 (0.5)	0	0[2] (4.2)	80[44] (4.2)	67[44] (3.5)
3 あやしても笑わない	8[4] (0.6)	10[2] (0.7)	2 (1.0)	3[2] (1.3)	2 (1.3)	0	0	0[1] (0.6)	12[4] (0.6)	13[5] (0.7)
4 まわりを見つめない	16[15] (1.1)	16[20] (1.2)	0	1[2] (0.4)	1[1] (0.6)	1 (0.5)	0	0	17[16] (0.9)	18[22] (0.9)
5 首がすわらない	414[124] (29.6)	361[91] (26.3)	16[7] (7.6)	20[7] (8.9)	4[1] (2.6)	5[2] (2.7)	1[1] (0.7)	1[2] (0.9)	435[133] (22.8)	387[102] (20.4)

6 ねがえりが出来ない	1109[52] (79.2)	1075[41] (78.4)	127[3] (60.5)	123[4] (54.9)	65[3] (42.2)	72 (38.3)	33[2] (23.6)	34[3] (30.1)	1,334[60] (70.0)	1,304[48] (68.7)
7 おもちゃでよく遊ばない	992[71] (70.8)	982[61] (71.6)	94[5] (44.8)	109[11] (48.7)	39[4] (25.3)	39[4] (20.7)	14[6] (10.0)	7[3] (6.2)	1,139[86] (59.8)	1,137[79] (59.9)

() % [] 不明

月令別、性別に家族の観察状況が示めされている。訴えは3カ月に多く、当然のことながら発達の進むにつれ少なくなっている。ここで注意しなければならないのは、[] 内の不明は、どうなのかよくわからない場合であり、これが全体で19.4%、3カ月児のみで22.9%の率をしめている。

主な事項は、3カ月で「音の方にむかない」が5.0%「首がすわらない」は、4カ月で8.5%、「おもちゃでよく遊ばない」が各月令にみられるが、家族が積極的に遊ばせない例も少なくないものと思われる。なお性別では、ほとんどの項目で差があまりみられない。

b) 9～12カ月(表4)

表4 秋田県9～12カ月児発育・行動発達異常状況(27市町村)

事 項	月 令		性		9カ月		10カ月		11カ月		12カ月		合 計	
	調 査 数				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1 発育不順					118	109	117	90	128	122	120	113	483	434
2 お座りが出来ない					0[3] (2.8)	3[4] (2.6)	3[4] (2.6)	4[3] (4.4)	0[1] (2.5)	3[5] (2.5)	3[1] (2.5)	1[5] (0.9)	6[9] (1.2)	11[17] (2.5)
3 おもちゃをつかんだり離したり自由に出来ない					0[0] (0.9)	1[0] (0.9)	0[1] (1.1)	1[0] (1.1)	0[0]	0[1]	0[1]	0[0]	0[2]	2[1] (0.5)
4 自分のしたいことや、してもらいたいことを教えない					2[1] (1.7)	0[0]	0[0]	1[0] (1.1)	0[0]	0[0]	1[0] (0.8)	0[0]	3[1] (0.6)	1[0] (0.2)
5 周囲の物に興味がない					36[10] (30.5)	14[12] (12.8)	22[12] (18.8)	18[7] (20.0)	18[8] (14.1)	13[10] (10.7)	12[5] (10.0)	9[6] (8.0)	88[35] (18.2)	54[35] (12.4)
6 そばに人がいなくても淋しがらない					1[0] (0.8)	2[0] (1.8)	1[0] (0.9)	0[1] (1.1)	0[0]	0[0]	0[0]	0[0]	2[0] (0.4)	2[1] (0.5)
8 耳がよく聞えない					3[0] (2.5)	2[1] (1.8)	6[0] (5.1)	4[1] (4.4)	7[0] (5.5)	10[0] (8.2)	6[2] (5.0)	13[0] (11.5)	22[2] (4.6)	29[2] (6.7)
8 喃語を話さない					0[0]	1[0] (0.9)	0[2]	0[0]	0[0]	0[0]	0[0]	0[1]	0[2]	1[1] (0.2)
8 喃語を話さない					22[5] (18.6)	14[2] (12.8)	11[9] (9.4)	10[2] (11.1)	11[2] (8.6)	7[2] (5.7)	11[0] (9.2)	6[2] (5.3)	55[16] (11.4)	37[8] (8.5)

() % [] 不明

行動発達の質問も、適応、社会、言語とやや複雑になっているが、大体において月令相応の通過をしていると思われる。要求の表現のおくれが12カ月で9.0%、「喃

語を話さない」が7.3%となっている。

c) 2才(表5)

「発育、栄養の心配あり」が18.9%、栄養のとり方で

表5 秋田県2才児発育・行動発達異常状況(10市町村)

事 項	性		男		女		計	
	調 査 数		560		523		1,083	
事 項	実 数・%		実 数	%	実 数	%	実 数	%
1 発育栄養心配あり			112	20.0	93	17.8	205	18.9
2 母乳をまだのんでいる、ミルクを哺乳びんでのんでいる			149	26.6	143	27.3	292	27.0
3 ぐちえゝがおくれている			2	0.4	3	0.6	5	0.5
4 テレビや大人のまねが全然出来ない			0	0	1	0.2	1	0.1
5 命令に対し、理解して行動が出来ない			5	0.9	6	1.1	11	1.0
6 言葉がおくれている			59	10.5	35	6.7	94	8.7
7 発音がおかしい			26	4.6	14	2.7	40	3.7

8 目の具合がわるい	22	3.9	15	2.9	37	3.4
9 耳のきこえが悪い	1	0.2	0	0	1	0.1
10運動がおくれている	19	3.4	9	1.7	28	2.6

「母乳をまだ飲んでいる、又はミルクをまだ哺乳ビンで飲んでいる」が27.0%おり、この中、完全に母乳をまだ飲んでいることを記載している子どもが、2才児1,083名の中66名(6.1%)となっている。「言葉がおくれている」は8.7%、「運動がおくれている」が2.6%である。勿論、発達段階の個人差の考慮も必要であろうが、一応精査の対象と思われる。

2才で母親自身が、明らかに知恵のおくれ、耳のきこえの悪いことを気づいている例が、それぞれ1名みられた。

2 身体異常状況

a) 3～6カ月(表6)

訴えの最も多い月令は、3カ月で、先天性の形態、皮

表6 秋田県3～6カ月児身体異常状況(その1)(39市町村)

事 項	月 令		3 カ月		4 カ月		5 カ月		6 カ月		合 計	
	性	調査数	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
			1,401	1,372	210	224	154	188	140	113	1,905	1,897
8形態(形・色)異常			315 (22.5)	367 (26.7)	46 (21.9)	35 (15.6)	29 (18.8)	34 (18.1)	23 (16.4)	14 (12.4)	413 (21.7)	450 (29.7)
9異常におとなしい			8 (0.6)	6 (0.4)	0 (0.9)	2 (0.6)	1 (0.6)	1 (0.5)	0 (0.5)	0 (0.5)	9 (0.5)	9 (0.5)
10体が柔かい			15 (1.1)	13 (0.9)	0 (2.2)	5 (0.6)	1 (0.6)	1 (0.5)	0 (0.9)	1 (0.8)	16 (0.8)	20 (1.1)
11うでやあしぎが硬い、手足の動きがおかしい			7 (0.5)	6 (0.4)	0 (0.4)	1 (1.3)	2 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.9)	1 (0.5)	9 (0.5)	9 (0.5)
12風呂・授乳泣、いた時など青くなる			8 (0.6)	4 (0.3)	0 (0.5)	0 (0.4)	0 (1.1)	0 (1.4)	0 (1.8)	1 (0.8)	8 (0.4)	5 (0.3)
13顔色がわるい			13 (0.9)	11 (0.8)	1 (0.5)	1 (0.4)	0 (1.1)	0 (1.4)	2 (1.8)	0 (0.5)	16 (0.8)	12 (0.6)
14乳の飲みが悪い			37 (2.6)	41 (3.0)	5 (2.4)	8 (3.6)	0 (1.1)	2 (2.1)	3 (1.8)	2 (2.4)	45 (2.4)	53 (2.8)
15吐いてふとらない			13 (0.9)	24 (1.7)	2 (1.0)	5 (2.2)	1 (0.6)	1 (0.5)	1 (1.4)	2 (0.9)	18 (0.9)	31 (1.6)
16下痢しやすい			3 (0.2)	18 (1.3)	2 (1.0)	5 (2.2)	0 (1.1)	0 (1.4)	5 (3.6)	1 (0.9)	10 (0.5)	24 (1.3)
17便秘しやすい			64 (4.6)	58 (4.2)	9 (4.3)	6 (2.7)	6 (3.9)	3 (1.6)	7 (5.0)	1 (0.9)	86 (4.5)	68 (3.6)

() %

表6 秋田県3～6カ月児身体異常状況(その2)(39市町村)

事 項	月 令		3 カ月		4 カ月		5 カ月		6 カ月		合 計	
	性	調査数	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
			1,401	1,372	210	224	154	188	140	113	1,905	1,897
18いつもお腹が大きく張っている			23 (1.6)	22 (1.6)	3 (1.4)	3 (1.3)	0 (0.6)	0 (1.1)	1 (2.1)	1 (0.9)	27 (1.4)	26 (1.4)
19尿の出方や色がおかしい			15 (1.1)	12 (0.9)	3 (1.4)	0 (0.6)	1 (1.1)	2 (1.1)	3 (2.1)	1 (0.9)	22 (1.2)	15 (0.8)
20いつもぜいぜいしている			93 (6.6)	52 (3.8)	7 (3.3)	5 (2.2)	4 (2.6)	7 (3.7)	4 (2.9)	5 (4.4)	108 (5.7)	69 (3.6)
21熱を出し、気管支炎、肺炎をくり返す			16 (1.1)	12 (0.9)	1 (0.5)	6 (2.7)	3 (1.9)	2 (1.1)	4 (2.9)	4 (35.4)	24 (1.3)	24 (1.3)
22光をきらう、まぶしがる、いつも涙が出ている			66 (4.7)	57 (4.2)	7 (3.3)	6 (2.7)	4 (2.6)	3 (1.6)	2 (1.4)	3 (2.7)	79 (4.1)	69 (3.6)
23皮膚におでき、湿疹が、できやすい			443 (31.6)	376 (27.4)	58 (27.6)	44 (19.6)	24 (15.6)	37 (19.7)	34 (24.3)	19 (16.8)	559 (29.3)	476 (25.1)
24ひきつけをおこしたり意識を失ったことあり			23 (1.6)	16 (1.2)	2 (1.0)	6 (2.7)	7 (4.5)	1 (0.5)	5 (3.6)	1 (0.9)	37 (1.9)	24 (1.3)

25今まで病氣にかかったことあり	367 (26.2)	328 (23.9)	48 (22.9)	41 (18.3)	42 (27.3)	47 (25.0)	38 (27.1)	32 (28.3)	495 (26.0)	448 (23.6)
26現在治療中の病氣あり	176 (12.6)	142 (10.3)	27 (12.9)	27 (12.1)	19 (12.3)	11 (5.9)	18 (12.9)	6 (5.3)	240 (12.6)	186 (9.8)

() %

膚色素異常が3ヵ月児2,773名中682名(24.6%)となっているが、血管腫、母斑、膺ヘルニア等の軽症の者がほとんどである。外に、心臓疾患の疑われる症状や、感染症、皮膚病が主なものとなっている。呼吸器感染症や、皮膚の湿疹等は、各月令にみられる。「ひきつけ」は、3～6ヵ月児3,802名中、261名(6.9%)の既往歴を持っているが、この中、明らかに熱のあったことを記載し

ているのが、わずかに8名で、他は熱の有無は全く不明である。病氣の既往歴を持つ子どもは、3～6ヵ月児の34.0%で、月令、性別に大差がみられない。

脳性麻痺様症状を持つ子どもが2名、肢体不自由児と思われるものが1名である。

b) 9～12ヵ月(表7)

栄養状態の心配あり、感染症、慢性疾患、アレルギー

表7

秋田県9～12ヵ月児 身体異常状況(27市町村)

事 項	月 令		9ヵ月		10ヵ月		11ヵ月		12ヵ月		合 計	
	性	調査数										
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
9形態(形・色)異常			15 (12.7)	11 (10.1)	19 (16.2)	14 (15.6)	18 (14.1)	13 (10.7)	17 (14.2)	11 (9.7)	69 (14.3)	49 (11.3)
10内臓奇型			1 (0.8)	1 (0.9)	0	3 (3.3)	0	0	0 (0.8)	0	3 (0.6)	4 (0.9)
11身体の栄養の心配			22 (18.6)	18 (16.5)	27 (23.1)	21 (23.3)	25 (19.5)	27 (22.1)	23 (19.2)	27 (23.9)	97 (20.1)	93 (21.4)
12歯が生えない			5 (4.2)	10 (9.2)	2 (1.7)	6 (6.7)	1 (0.8)	2 (1.6)	1 (0.8)	2 (1.8)	9 (1.9)	20 (4.6)
13異常におとなしい			0	0	0	1 (1.1)	0	0	0	0	0	1 (0.2)
14身体が柔かい			0	1 (0.9)	2 (1.7)	0	2 (1.6)	0	1 (0.8)	1 (0.9)	5 (1.0)	2 (0.5)
15「うで、やゝあし」が硬い、手足の動きがおかしい			2 (1.7)	1 (0.9)	0	0	1 (0.8)	2 (1.6)	0	0	3 (0.6)	3 (0.7)
16かぜ、気管支炎、肺炎などをくり返している			10 (8.5)	4 (3.7)	10 (8.5)	8 (8.9)	18 (14.1)	8 (6.6)	12 (10.0)	9 (8.0)	50 (10.4)	29 (6.6)
17慢性の病氣や、アレルギー性あり			11 (9.3)	7 (6.4)	11 (9.4)	3 (3.3)	12 (9.4)	10 (8.2)	16 (13.3)	8 (7.1)	50 (10.4)	28 (6.5)
18下痢しやすい			4 (3.4)	3 (2.8)	4 (3.4)	4 (4.4)	3 (2.3)	1 (0.8)	5 (4.2)	4 (3.5)	16 (3.3)	12 (2.8)
19便秘しやすい			4 (3.4)	1 (0.9)	5 (4.3)	6 (6.7)	5 (3.9)	1 (0.8)	2 (1.7)	1 (0.9)	16 (3.3)	9 (2.0)
20お腹が大きく張る			0	0	1 (0.9)	1 (1.1)	2 (1.6)	1 (0.8)	2 (1.7)	0	5 (1.0)	2 (0.5)
21光をきらう			3 (2.5)	0	3 (2.6)	1 (1.1)	1 (0.8)	0	0	0	7 (1.4)	1 (0.2)
22ひきつけたことあり			9 (7.6)	8 (7.3)	4 (3.4)	7 (7.8)	11 (8.6)	5 (4.1)	12 (10.0)	7 (6.2)	36 (7.5)	27 (6.2)
23大きい病氣あり			20 (16.9)	14 (12.8)	12 (10.3)	13 (14.4)	12 (9.4)	14 (11.5)	9 (7.5)	11 (9.7)	53 (10.9)	52 (12.0)

() %

性疾患と思われる訴えがみられる。「ひきつけ」の既往は9～12ヵ月児917名中、63名(6.9%)で、この中熱があったと記載されているものは21名で、3～6ヵ月児と同様に熱の有無はいまいである。病氣の既往は9～12ヵ月児の11.5%で、月令、性別において大差がみられない。

脳性麻痺様と思われる子どもが1名となっている。

c) 2才(表8)

乳児期に比し、母親の訴えも全般的に明確になってい

る。先天性外形、色の異常が1,083名中33名(3.0%)、先天性内臓異常が5名(0.5%)である。「病氣にかかりやすい」が215名(19.9%)で、この中の主なものは感染である。慢性アレルギー性疾患は120名(11.1%)、「ひきつけ」の既往は104名(9.6%)で、この中熱があったと記載しているのが86名(82.7%)で、他は熱の有無は不明である。現在治療中の病氣を持っている子どもが42名(3.9%)で、乳児期に比し少ない。

脳性麻痺様の子どもが1名で、明らかに神経麻痺と診

表8 秋田県2才児身体異常状況(10市町村)

事 項	性		男		女		合 計	
	調査数	実数%	560		523		1,083	
			実数	%	実数	%	実数	%
11歩き方がおかしい			8	1.4	8	1.5	16	1.5
12手足の動きがおかしい			4	0.7	5	1.0	9	0.8
13生れつき、形や色がおかしい			22	3.9	11	2.1	33	3.0
14生れつき、内臓異常あり			3	0.5	2	0.4	5	0.5
15病気にかかりやすい			121	21.6	94	18.0	215	19.9

16慢性・アレルギー性の病 気がある	67	12.0	53	10.1	120	11.1
17ひきつけたことあり	59	10.5	45	8.6	104	9.6
18大きい病気の既往	30	5.4	17	3.3	47	4.3
19現在治療中の病気あり	24	4.3	18	3.4	42	3.9

断され、運動障害のある子どもが1名である。

3 養 護

乳児期においては、主に養育者、栄養方法に関して質問がなされ、2才では、生活習慣が中心となっている。

a) 3～6カ月(表9)

表9 秋田県3～6カ月児養護状況(養育者・栄養)(39市町村)

事 項	月令 性 調査数	3カ月		4カ月		5カ月		6カ月		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
		1,401	1,372	210	224	154	188	140	113	1,905	1,897
主 養 育 者	母	1,119 (79.9)	1,044 (76.1)	130 (61.9)	138 (61.6)	90 (58.4)	102 (54.3)	81 (57.9)	60 (53.1)	1,420 (74.5)	1,344 (70.8)
	祖 母	161 (11.5)	200 (14.6)	46 (21.9)	47 (21.0)	43 (27.9)	54 (28.7)	40 (28.6)	39 (34.5)	290 (15.2)	340 (17.9)
	祖 父	3 (0.2)	2 (0.1)	2 (1.0)	2 (0.9)	1 (0.6)	1 (0.5)	1 (0.7)	0	7 (0.4)	5 (0.3)
	そ の 他	16 (1.1)	17 (1.2)	3 (1.4)	2 (0.9)	2 (1.3)	0	2 (1.4)	3 (2.7)	23 (1.2)	22 (1.2)
	不 明	102 (7.3)	109 (7.9)	29 (13.8)	35 (15.6)	18 (11.7)	16 (16.5)	16 (11.4)	11 (9.7)	165 (8.7)	186 (9.8)
栄 養 法	母 乳	351 (25.1)	397 (28.9)	56 (26.7)	69 (30.8)	33 (21.4)	57 (30.3)	34 (24.3)	34 (30.1)	474 (24.9)	557 (29.4)
	人 工	719 (51.3)	655 (47.7)	105 (50.0)	103 (46.0)	79 (51.3)	80 (42.6)	75 (53.6)	56 (49.6)	978 (51.3)	894 (47.1)
	混 合	303 (21.6)	303 (22.1)	44 (21.0)	45 (20.1)	36 (23.4)	43 (22.9)	27 (19.3)	18 (15.9)	410 (21.5)	409 (21.6)
	不 明	28 (2.0)	17 (1.2)	5 (23.8)	7 (31.3)	6 (3.9)	8 (4.3)	4 (2.9)	5 (4.4)	43 (2.3)	37 (2.0)
離 乳	やってない	439 (31.3)	519 (37.8)	49 (23.3)	46 (20.5)	16 (10.4)	25 (13.3)	7 (5.0)	5 (4.4)	511 (26.8)	595 (31.4)
	不 明	207 (14.8)	179 (13.0)	42 (20.0)	46 (20.5)	28 (18.2)	40 (21.3)	28 (20.0)	25 (22.1)	305 (16.0)	290 (15.3)

() %

主な養育者は、各月令合わせて3,802名中、母親である場合が72.4%、祖母が主となって育てている場合が16.6%である。

栄養方法は、母乳27.1%、人工49.2%、混合21.5%で

6カ月児で離乳食を与えていないのが253名中12名(4.7%)となっている。

b) 9～12カ月(表10)

12カ月で、「抱かないとねつけない」が、233名中27名

表10

秋田県9～12カ月児養護状況(27市町村)

事 項	月令 性 調査数	9カ月		10カ月		11カ月		12カ月		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
		118	109	117	90	128	122	120	113	483	434
24抱かないとねつけない ったり、夜泣きする		30 (25.4)	18 (16.5)	20 (17.1)	14 (15.6)	16 (12.5)	12 (9.8)	18 (15.0)	9 (8.0)	84 (17.4)	53 (12.2)
25むら食い		6 (5.1)	6 (5.5)	6 (5.1)	9 (10.0)	7 (5.5)	11 (9.0)	8 (6.7)	9 (8.0)	27 (5.6)	35 (8.1)
26偏食		2 (1.7)	0	2 (1.7)	2 (2.2)	2 (1.6)	3 (2.5)	2 (1.7)	3 (2.7)	8 (1.7)	8 (1.8)

27	ミルク又は母乳だけで 外に食べようとしない	3 (2.5)	5 (4.6)	3 (2.6)	3 (3.3)	4 (3.1)	5 (4.1)	6 (5.0)	5 (4.4)	16 (3.3)	18 (4.1)
29	変なくせがある	2 (1.7)	1 (0.9)	1 (0.9)	0	0	0	1 (0.8)	0	4 (0.8)	1 (0.2)
30	現在、母乳又はミルク をのんでいる	114 (96.6)	106 (97.2)	114 (97.4)	86 (95.6)	120 (93.8)	116 (95.1)	107 (89.2)	103 (91.2)	455 (94.2)	411 (94.7)
31	離乳食をまだたべてい ない	[11]	[12]	2[10]	[16]	[17]	[9]	[11]	[15]	2[49]	[52]

() % [] 不明

(11.6%)，「現在、母乳又はミルクを飲んでいる」のが210名で12ヵ月児の90.1%である。この中、明らかに母乳を飲んでいるのが82名(35.2%)となっている。

c) 2才(表11)

表11 秋田県2才児養護状況(10市町村)

事 項	性	男		女		合 計	
		調査数		調査数		調査数	
		実数	%	実数	%	実数	%
20	食	560		523		1,083	
事	困っている	163	29.1	144	27.5	307	28.3
	少 食	77	13.8	85	16.3	162	15.0
	偏 食	87	15.5	61	11.7	148	13.7
21	排便・排尿						
事	困っている	140	25.0	84	16.1	224	20.7
	排便を教えない	91	16.3	48	9.2	139	12.8
	排尿の回数が多い	30	5.4	22	4.2	52	4.8
	尿をもらす	16	2.9	17	3.3	33	3.0
22睡眠について困る		24	4.3	27	5.2	51	4.7
23いうことをきかない		12	2.1	17	3.3	29	2.7
24人を噛んだり乱暴する		48	8.6	24	4.6	72	6.6
25あまり笑ったり泣いたりしない		1	0.2	2	0.4	3	0.3
26母親(養育者)から離れない		33	5.9	24	4.6	57	5.3
27出来るのに人に頼る		12	2.1	15	2.9	27	2.5
28周囲に無関心		7	1.3	7	1.3	14	1.3
29変なくせがある		15	2.7	17	3.3	32	3.0

「食事に対して困っている」が1,083名中307名(28.3%)で、少食、偏食等がその主なものである。「排便・排尿について困っている」が224名(20.7%)で、教えない、回数が多い、尿をもらすなどである。

B 経済地区帯区分別比較(表12)

調査した39市町村を農林省経済地区帯区分に従い、都市近郊(秋田市)、平地農村(23カ所)、農山村(24カ所)に分け、3ヵ月児について、アンケート項目の発育、身体状況の中、異常頻度の高い事項と、養育者およ

表12 経済地区帯区分3ヵ月児発育、行動、身体異常、養護状況

事 項	調査数	秋田市		平地農村		農山村	
		1,870		523		380	
		実数	%	実数	%	実数	%
1 発育不順	28 [56]	5 1.5	1.0	7 [9]	1.8		
7 おもちゃでよく遊ばない	1357 [93]	72.6	345 [24]	66.0	272 [15]	71.6	
8 形態(形・色)異常	474	25.3	111	21.2	97	25.5	
23 皮膚におでき、湿疹が出来るやすい	618	33.0	108	20.7	93	24.5	
24 ひきつけをおこしたり、意識を失ったことあり	22	1.2	10	1.9	7	1.8	
25 今まで病気にかったことあり	510	27.3	110	21.0	75	19.7	
26 現在治療中の病気あり	224	12.0	59	11.3	35	9.2	
主 なる 養 育 者	母	1578	84.4	328	62.7	257	67.6
	祖 母	154	8.2	126	24.1	81	21.3
栄 養 法	母 乳	490	26.2	141	27.0	117	30.8
	人 工	981	52.5	236	45.1	157	41.3
	混 合	374	20.0	137	26.2	95	25.0

[] 不明

び栄養方法について比較してみた。

発育不順、先天性形態、色素異常、皮膚疾患、ひきつけ、病気の既往、現在の罹病等において、3地区ともほとんど差がみられない。ただ、養育者は、祖母が主である家庭は、秋田市で1,870名中、154名(8.2%)で、他の平地農村523名中126名(24.1%)、農山村380名中、81名(21.3%)に比しはるかに少ない。

栄養方法の母乳、人工、混合の割合も、ほとんど地域差がみられない。

V 考 察

以上秋田県乳幼児健診のアンケートを、39市町村5,802名の結果についてまとめてみた。実施初年度のことで、アンケートそのものの検討も必要なのが反省させられるが、今回は、その面について割愛する。

調査結果の中から、

A 母親のアンケートに対する態度

B 発育，行動発達，身体異常状況

C 養護

について，母子保健管理に関連する面について少しく考えてみたい。

A 母親のアンケートに対する態度

アンケートは，子どもを中心に，母親や，家族の観察を通し，家庭において記載する方式としているが，割合よく記入されていると思われる。

殊に脳性麻痺様の子どもや奇型など，一般の乳幼児健診で，母親から言い出し難いことについても，具体的に記入しており，訴えを通して，すぐに解決してもらいたい気持の伺える内容もみられた。

戦後の低栄養，感染症の時代より，その疾病形態も変化していることは，本県においても，全国的傾向と同様で，母親の要求も，さらに，より健康な子どもへと強い関心を示めている。

母子保健管理には，行政的に県や市町村が行なう集団健診方法も，有力な把握方法であり，今後も続けて行くこととなると思われるが，ややもすれば，時間的に流れ作業にならざるを得ない状態となる上からも，かかるアンケート方式を通し，家族の訴えを十分にとり入れて行なうことが大切と思う。

その上，さらに埋もれている心身障害児や，先天異常その他の問題児の把握にも効果を期待し得るのではないと思われる。

B 発育，行動発達，身体異常について

今回の集計は，あくまでも家族のチェックによるものであり，保健所や市町村の乳幼児健診に参加した子どものみの結果である。47年度市町村受診状況のまとめはまだ明らかでないが，昭和45年以来受診率は県平均70.0%～75.0%である点より，この度の集計も県内の傾向は一応推察出来るものと思われる。

最も訴えの多いのは3カ月で，月令の進むにつれ，栄養の心配，感染症，慢性病，アレルギー性疾患等固定した姿となり，12カ月で再び訴えの多くなるものもみられた。2才児では，乳児期で解決出来なかった異常が，そのまま残されて出て来ているためか，かなり明確な具体的な解答が多い。

脳性麻痺様の子どもが3～6カ月で2名，9～12カ月で1名，2才で1名，計4名みられ，肢体不自由児は3～6カ月と2才でそれぞれ1名，計2名発見されている。

調査39市町村を，農林省経済地区帯区分に従い，秋田市，平地農村，農山村の3地区に分け，3カ月児について，地域差を検討したが，いずれの項目もほとんど差がみられず，かつての低かった農村の衛生状態が漸次改善されていることが十分に伺える結果がみられた。

心理的な問題を具体的に明確に訴えているのは2才で，乳児期においては，極めてあいまいで，その結果「わからない」となっている。このことは，その面の知識が少ないことと，祖母中心の育児環境のため，母親が十分な観察が困難な場合も考えられる。

C 養護について

本県農村の母子衛生をすすめるにあたり一つの壁になっていたのが，子どもの養育者が祖母である家庭の多いことであった。

しかしながら，時代の変化と，担当者の努力等により子どもは次第に両親の手にゆだねられる傾向になってきたことは，誠に喜ばしいことである。子どもの主な養育者について，昭和38，39年に秋田県本荘保健所で調査した結果と，今回の調査との比較を表13に示めたが，

表13 養育者の地区別年度別比較

事項	区分		都市 近郊		平地 農村		農 山 村	
	年度別	調査数	38～39	47	38～39	47	38～39	47
			本荘市	秋田市				
主なる養育者	母		286 (79.9)	1,578 (84.4)	174 (40.9)	328 (62.7)	233 (31.4)	257 (67.6)
	祖母		53 (14.8)	154 (8.2)	214 (50.4)	126 (24.1)	450 (60.6)	81 (21.3)

() %

注 昭和38，39 本荘保健所管内1市7カ町村
昭和47 県内39市町村

10年後の今日，平地農村，農山村において何れも母親の担当している比率が増加し，祖母のそれが減少していることは明らかである。

また，栄養法についても，かつては，農村に母乳栄養児が多かったのが，現在では，母乳，人工，混合栄養の比率に地域差はほとんどみられない。しかし，母乳をまだ飲んでいない子どもが12カ月で35.2%，2才で6.1%おることなど，これまでの保健指導のあり方も十分反省しなければならない。

以上の結果から，母子保健管理においてもこれまで，市部，農村部と二本立の考え方で進められていたが，今後は新しい観点からすすめて行く時期であるとも考えられる。

なお，今回はアンケートそのもののまとめであり，そ

の訴えと健診結果との関連、異常者の follow up を進めることにより、正しい実態を得たいものと思う。

Ⅵ ま と め

集団で行なう乳幼児健診の、より効果的な一方法としてアンケート方式の採用を試みたので、その結果を通し母親のアンケートへの態度、家族の訴える発達、身体異常、養護の概略をのべ、母子保健管理との関連を考えてみた。

A、母親のアンケートに対する関心は強く、集団方式をこのまま続けるとしたならば、家族の観察や訴えを十分にきき入れ、健診の内容を高めると共に、家族の要求も満たすような方式が是非必要であり、アンケートの意義は大きいと思われる。

B、発達や身体異常についての主な訴えは、先天性の形態、色素異常、栄養、感染、慢性疾患、アレルギー、ひきつけ等である。さらに例数は少ないながら脳性麻痺様の子どもが4名、肢体不自由児2名など管理面での貴重な情報も得られた。

3ヵ月児で、秋田市、平地農村、農山村の地域差をみたが、身体異常の差はほとんどみられない。

C、養護の面で、主な養育者が祖母である家庭は、まだ農村部にやや多いが、10年前に比し、非常に少なくなっている。

栄養方法について、母乳、人工、混合別の割合も、市部、農村部において差がほとんどない。このような地域差解消の傾向より、母子保健管理の上からも、今後の方向に新しい面が期待される。